



第109期(平成30年3月期) 第2四半期 決算説明会

株式会社 サンエー化研

2017年12月7日

目 次

1. 第109期(平成30年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第109期(平成30年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績見込
- セグメント別通期見込(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- 産業資材の商品展開
- 施設紹介
- 基本情報

目 次

1. 第109期(平成30年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第109期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位:百万円)

科 目	H28年3月期末 (第107期末)	H29年3月期末 (第108期末)	H30年3月期末 (第109期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	19,228	19,800	21,011	1,210	6.1%
現金預金	5,601	4,387	5,198	810	18.5%
売上債権	10,273	11,738	12,222	484	4.1%
棚卸資産	3,101	3,179	3,324	145	4.6%
その他	251	495	265	▲230	▲46.4%
固定資産	12,611	15,130	15,546	416	2.8%
有形固定資産	7,059	8,688	8,605	▲83	▲1.0%
無形固定資産	17	12	10	▲2	▲18.3%
投資その他の資産	5,534	6,428	6,930	502	7.8%
資産合計	31,839	34,930	36,557	1,626	4.7%

※百万円未満切捨て

第109期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	H28年3月期末 (第107期末)	H29年3月期末 (第108期末)	H30年3月期末 (第109期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,882	12,465	13,338	873	7.0%
仕入債務	6,045	6,738	7,340	601	8.9%
短期借入金	3,220	3,226	3,235	8	0.3%
その他	3,617	2,499	2,763	263	10.5%
固定負債	1,646	3,662	3,563	▲98	▲2.7%
長期借入金	233	1,909	1,615	▲294	▲15.4%
その他	1,413	1,752	1,948	195	11.2%
負債合計	14,529	16,127	16,902	774	4.8%
純資産	17,310	18,803	19,655	852	4.5%
負債及び純資産合計	31,839	34,930	36,557	1,626	4.7%

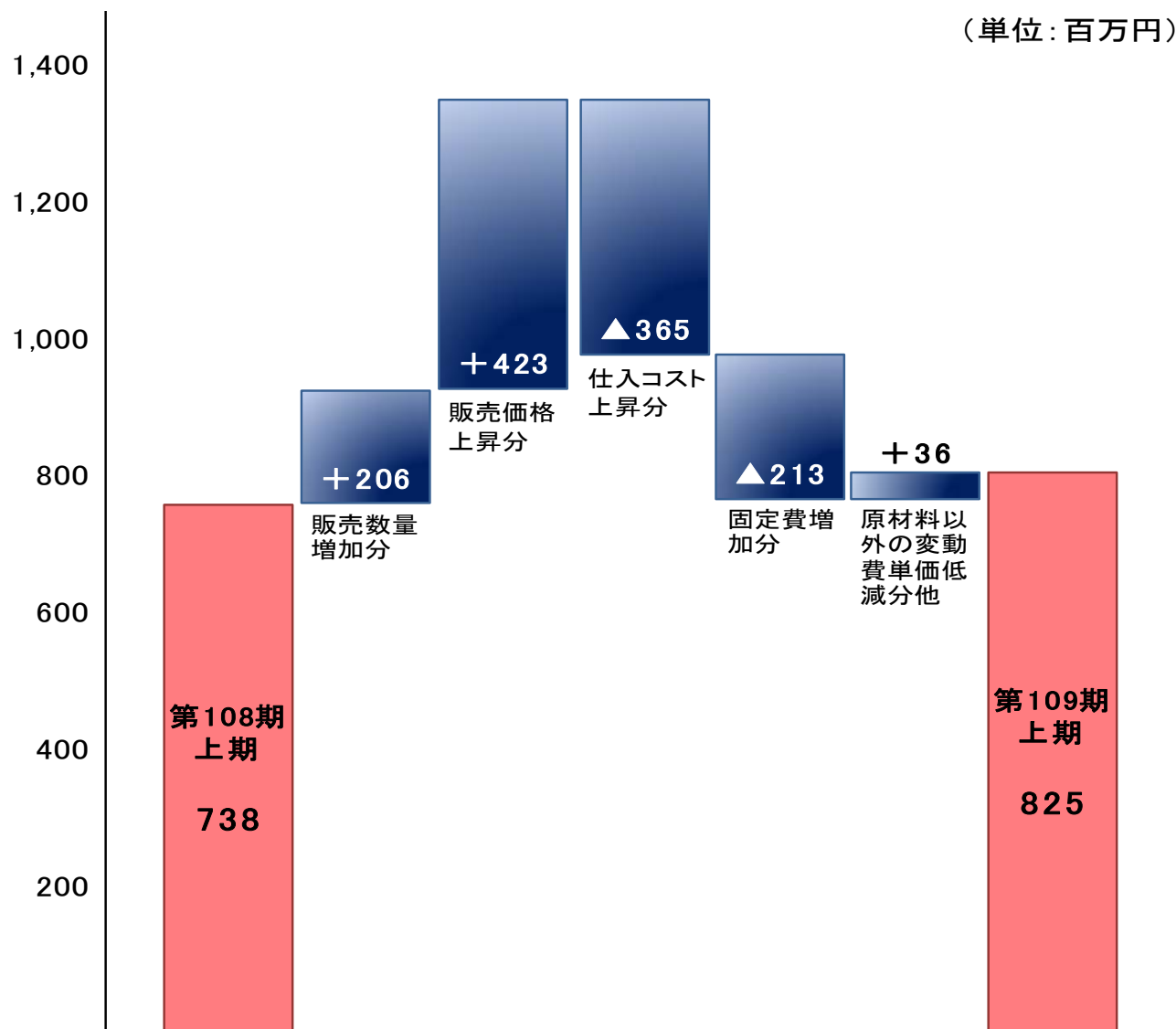
第109期第2四半期決算概要: 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	H28年3月期 (第107期) 第2四半期	H29年3月期 (第108期) 第2四半期	H30年3月期 (第109期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	15,054	15,624	16,677	1,052	6.7%
売上原価	13,004	13,205	14,291	1,086	8.2%
売上総利益	2,049	2,419	2,385	▲33	▲1.4%
販売費及び一般管理費	1,454	1,680	1,560	▲119	▲7.1%
営業利益	595	738	825	86	11.7%
営業外収益	114	95	109	14	15.2%
営業外費用	36	84	133	49	58.3%
経常利益	673	749	801	51	6.9%
特別利益	—	—	—	—	—
特別損失	—	—	—	—	—
税金等調整前四半期純利益	673	749	801	51	6.9%
税金費用他	210	231	267	36	15.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	463	518	533	15	3.1%

※百万円未満切捨て

第109期第2四半期決算概要：営業利益の要因分解



当第2四半期は、販売面においては、出荷数量の増加により2億6百万円、売上構成の変化に伴う平均販売価格の上昇により4億23百万円、それぞれ増益となった。

費用面においては、売上構成の変化や仕入商品の取扱量増加により仕入コストが3億65百万円上昇した他、昨年竣工した掛川工場WEST及びR&Dセンターの償却負担の増加等により固定費が2億13百万円増加したが、外注費その他の変動経費削減等の要因もあり、営業利益は前年同期比で87百万円の増益となった。

目 次

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況（軽包装材料、産業資材、機能性材料）

各セグメントの概況：セグメント別業績内訳

(単位：百万円)

科目／セグメント	H28年3月期 (第107期) 第2四半期	H29年3月期 (第108期) 第2四半期	H30年3月期 (第109期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	15,054	15,624	16,677	1,052	6.7%
軽包装材料	7,277	7,034	6,902	▲132	▲1.9%
産業資材	3,710	3,521	3,577	56	1.6%
機能性材料	3,830	4,806	5,851	1,045	21.8%
その他	235	263	346	83	31.6%
営業利益	595	738	825	86	11.7%
軽包装材料	399	432	430	▲1	▲0.5%
産業資材	109	▲96	▲403	▲307	—
機能性材料	52	374	751	377	100.7%
その他	33	27	46	18	68.9%

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品加工業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品関連

第2Q売上高
3,244百万円



「レンジD○!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい

収益性・成長性

- 独自の食品包材で収益確保
- 国内市場は成熟、海外市場に期待

医薬品・医療器具関連

第2Q売上高
1,128百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿医薬包材の需要拡大
- 高齢化により医療分野は成長期待

洗剤・トイレタリー関連

第2Q売上高
428百万円



大型製袋機導入により本格生産開始。今後は独自商品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 詰替え用パウチの採用が進み、伸びは一服

収益性・成長性

- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材の拡販に期待

電子・精密関連その他

第2Q売上高
2,102百万円



「エアロテクト」をはじめとするエア緩衝材がこの分野の代表商品。

市場環境

- 一般包材は競争厳しい
- エア関連製品は競合少ない

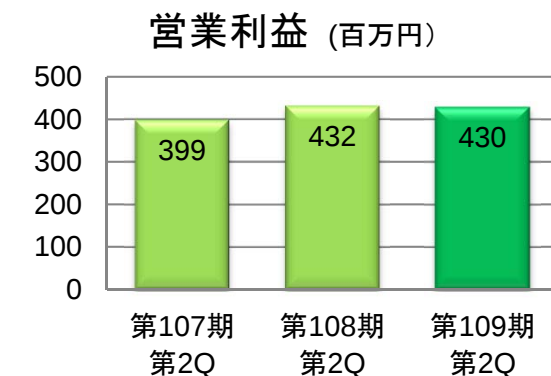
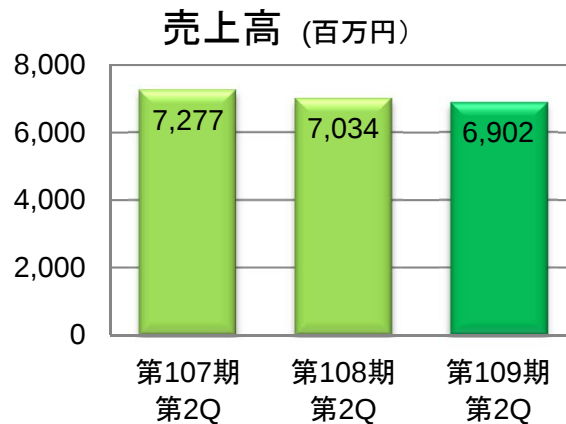
収益性・成長性

- 「エアロテクト」は主力ユーザーの生産計画変更の影響大

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

- 売上高： 6,902 百万円 （前年同期比 1.9% 減）
- 営業利益： 430 百万円 （前年同期比 0.5% 減）

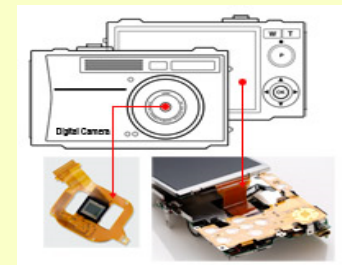
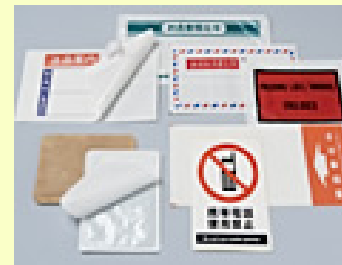


- 電子レンジ対応食品包材「レンジD○!」、清涼飲料用パウチとも堅調で、食品用包材は増収。
- 医薬・医療用包材は、高防湿PTPシート用フィルム「テクニフィルム」が伸びるも、他の商品が主要顧客の一時的な取扱量減少の影響を受け、減収。
- シャンプー・リンス、液体洗剤等の詰替え用パウチの多様化による競争で販売が伸び悩み、減収。
- エアー緩衝材「エアロテクト」が前年同期の大幅減収の反動により、増収。
- 原材料価格の安定と経費削減により減益幅圧縮へ。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ、ラベル等基材の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

ラミネート紙

第2Q売上高
865百万円



主に粘着テープ用基材（紙ベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m²/年
- テープ用：約420百万m²/年

収益性・成長性

- 市場は飽和状態
- クラフトテープの国内生産量は頭打ち

ラミネート布・ 布粘着テープ

第2Q売上高
1,029百万円



主に粘着テープ用基材（布・樹脂クロスベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

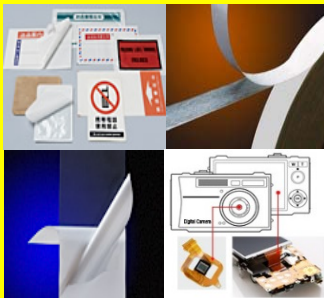
- 約200百万m²/年

収益性・成長性

- 海外品流入による低価格化が進行
- 国内競合メーカー少なく、シェア安定

剥離紙

第2Q売上高
1,683百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

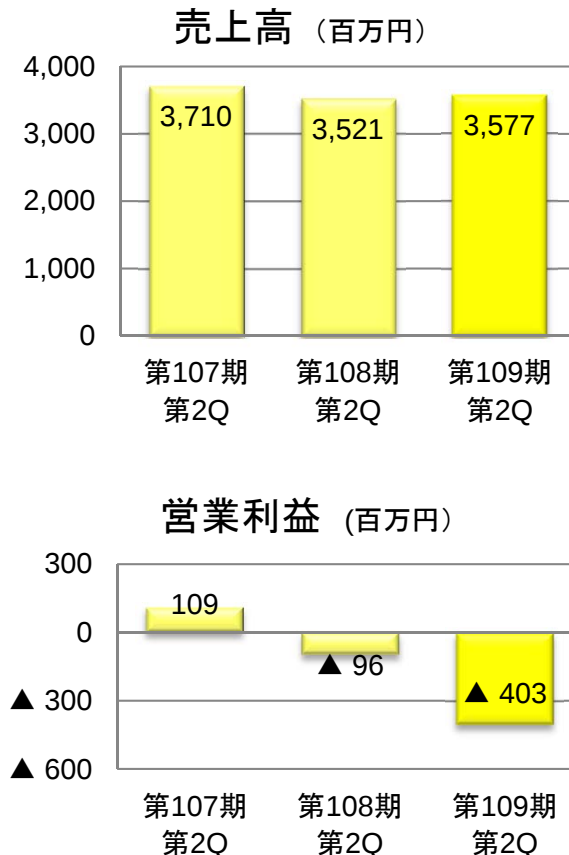
収益性・成長性

- 一般用途は収益性低下
- 電材用工程紙、炭素繊維プリプレグ用工程紙の開発・拡販に注力

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 3,577 百万円（前年同期比 1.6% 増）
- 営業利益：▲403 百万円（前年同期実績 ▲96百万円）



- テープ用基材については、宅配便貨物を中心に物流の活発化が見られるものの、海外製の粘着テープ流入の影響もあり、国内テープメーカーからの受注が伸びず減収。
- 剥離紙については、自動車関連分野が前期並みの水準にとどまるが、医療用品関連の受注が増加。
- 電材用工程紙については、海外ユーザーからの受注が回復し、剥離紙全体で増収。
- 売上は微増にとどまる一方で、前期竣工した掛川工場WEST関連の費用負担が増加し、大幅減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



長鼎電子材料 (蘇州)有限公司



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

サニテクト

第2Q売上高
1,284百万円



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約300百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 品種により他社製2層タイプとも競合
- 光学用途はNSタイプに成長期待

PAC

第2Q売上高
884百万円



2層押出しによる成膜化によって生産され、低コスト性に優れる。

市場規模（推定）

- 約900百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 液晶テレビの導光板用は需要減少
- 強粘着タイプの拡販が課題

SAT・ 粘着加工品

第2Q売上高
3,683百万円



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

- 約450百万m²/年
（光学用途）

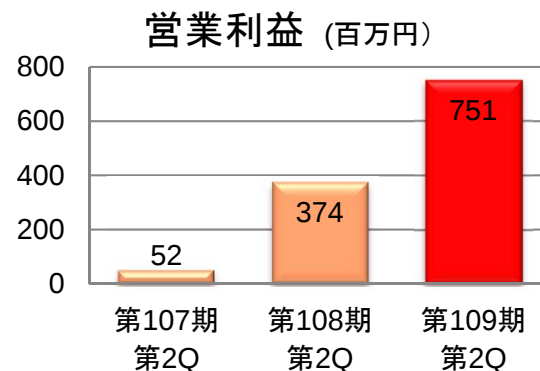
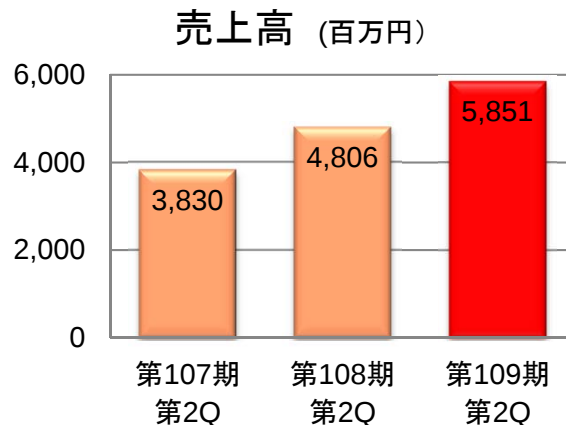
収益性・成長性

- 中国関連会社：長鼎電子材料（蘇州）有限公司との連携により受注拡大
- 高機能ディスプレイ対応品の需要増加

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料

- 売上高： 5,851 百万円 （前年同期比 21.8% 増）
- 営業利益： 751 百万円 （前年同期比 100.7% 増）



- 「サニテクト」については、大口案件の終息によりPET基材の「NSタイプ」が低調。その他の光学用途の案件において全般的に好調な受注が持続し、増収。
- 「PAC」については、液晶テレビ関連の他、スマートフォン関連でも受注が伸び、増収。
- 「SAT」については、液晶テレビ向け偏光板用の受注が好調。スマートフォン関連の受注も全般的に堅調で、大幅増収。
- 原材料価格の安定と設備稼働率改善に伴う製造コスト低減により、大幅増益。

目 次

3. 第109期(平成30年3月期)業績予想と今後の施策

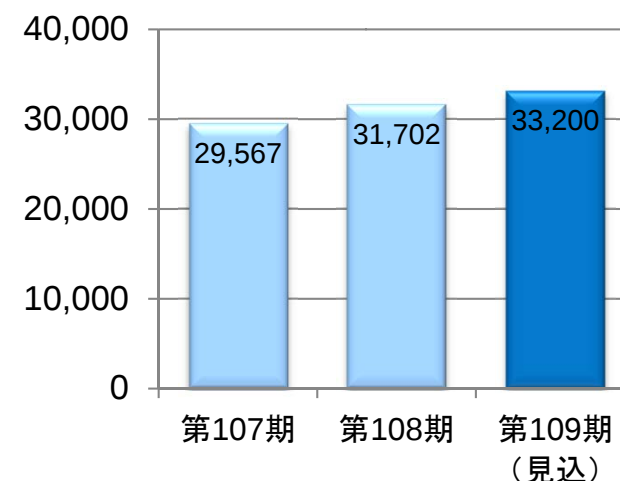
- 通期業績見込
- セグメント別通期見込(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第109期業績予想と今後の施策：通期業績見込

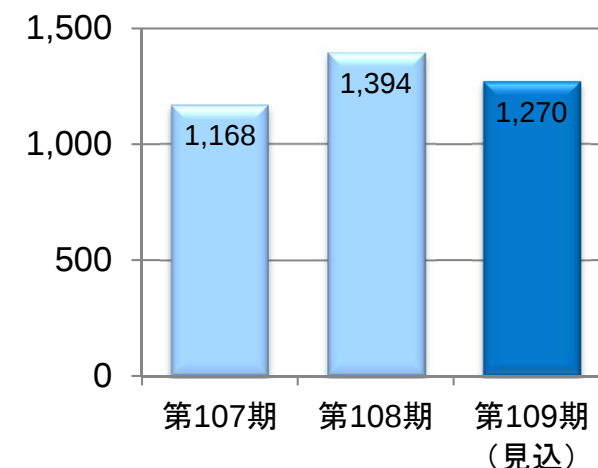
(単位：百万円)

科目／ セグメント	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期) (見込)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,567	31,702	33,200	1,497	4.7%
軽包装材料	14,071	13,854	13,600	▲254	▲1.8%
産業資材	7,458	7,194	7,500	305	4.2%
機能性材料	7,503	10,096	11,500	1,403	13.9%
その他	533	556	600	43	7.9%
営業利益	1,168	1,394	1,270	▲124	▲8.9%
経常利益	1,357	1,460	1,200	▲260	▲17.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	898	992	828	▲164	▲16.6%

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



※百万円未満切捨て

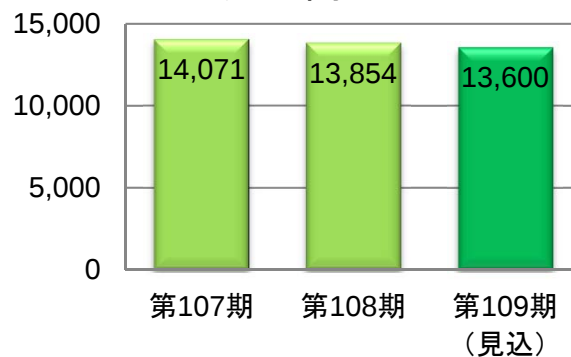
第109期業績予想と今後の施策：セグメント別通期見込（軽包装材料）

軽包装材料

【第109期見込額】

- 売上高：13,600 百万円（前期比 1.8% 減）
- 営業利益：710 百万円（前期比 14.0% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「レンジD○！」は、大手スーパーのPB商品採用や商品ラインアップ拡充により、増収を見込む。
- 医薬・医療用包材は増収、洗剤・トイレタリー用包材は前期並みを見込むが、エア緩衝材については、主力ユーザーの生産計画変更により「エアロテクト」の受注回復が見込めず、減収の見込み。
- 下期に原材料価格の上昇が見込まれる他、「エアロテクト」減収の影響もあり、減益を見込む。

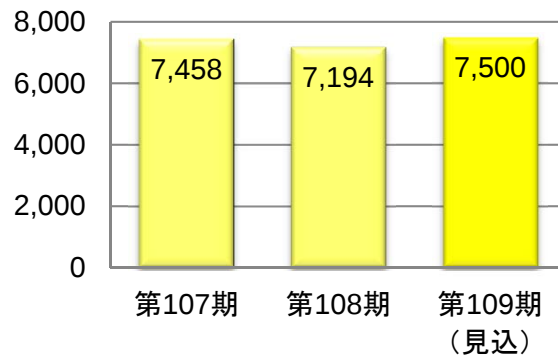
第109期業績予想と今後の施策：セグメント別通期見込（産業資材）

産業資材

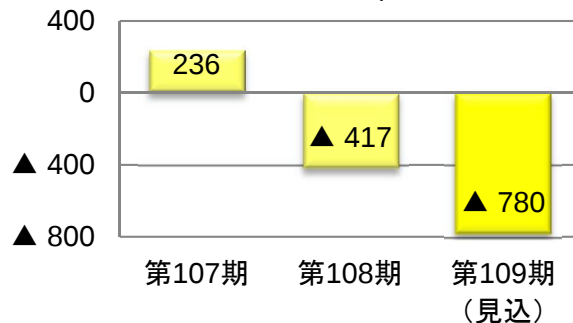
【第109期見込額】

- 売上高： 7,500 百万円（前期比 4.2% 増）
- 営業利益：▲780 百万円（前期実績 ▲417百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- テープ用基材については、国内需要が頭打ち状態にある現在の状況下では増収を見込みづらい。
- 剥離紙については、掛川工場WESTの稼働安定後は、新規案件への対応力が強まり、受注増を見込む。
- 電材用工程紙は、海外ユーザーの注文回復。炭素繊維プリプレグ用工程紙は、来期より売上寄与を見込む。
- 増収を見込むも、コスト面では掛川工場WESTの償却費及び移管費用の増加により、赤字幅拡大の見込み。

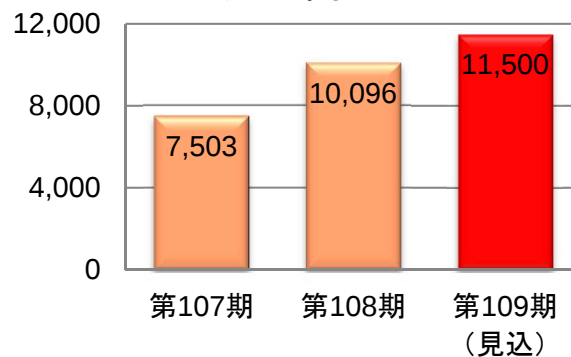
第109期業績予想と今後の施策：セグメント別通期見込（機能性材料）

機能性材料

【第109期見込額】

- 売上高：11,500 百万円（前期比 13.9% 増）
- 営業利益：1,260 百万円（前期比 33.9% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

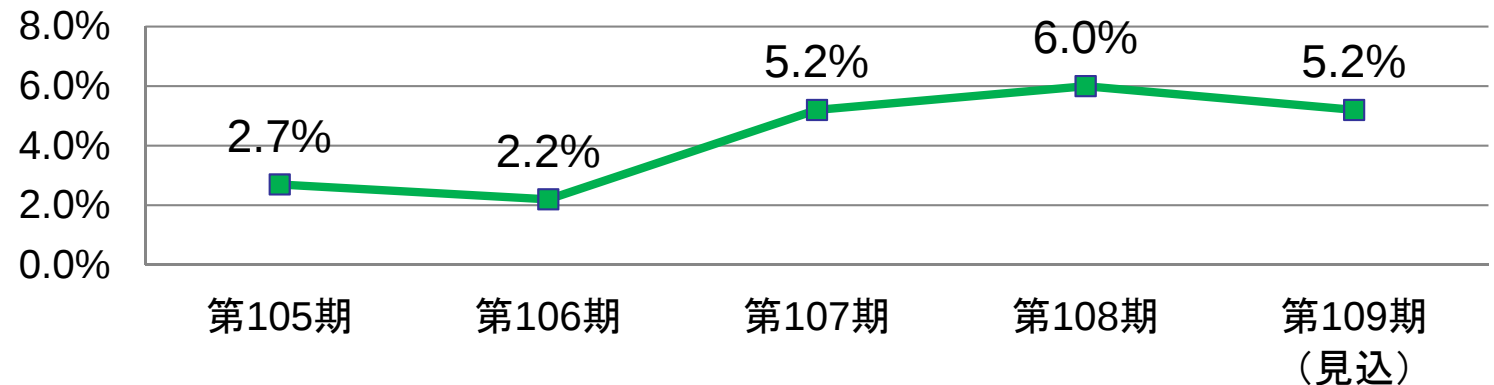


- 液晶テレビ向け偏光板用の表面保護フィルムは、下期も堅調な受注が見込まれる。
- 長鼎電子材料の量産計画の進捗遅延に伴い、中国販社の売上が計画比大幅減。既存ユーザーへは、掛川工場から海外向け低価格品の出荷が続く見込み。
- スマートフォン関連は、下期ペースダウンの見込み。中国の春節明けの受注次第で利益水準は変動。
- 下期に原材料価格の上昇が見込まれ、増益幅縮小へ。

第109期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（軽包装材料）

軽包装材料

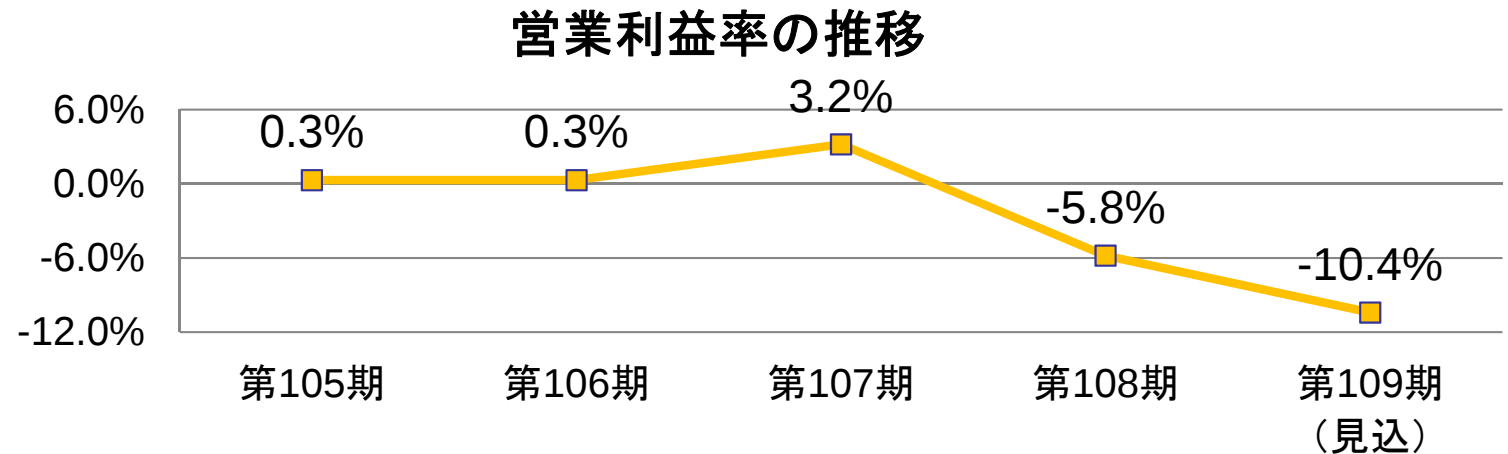
営業利益率の推移



- 市場ニーズと環境の変化に対応し、安定した収益を上げうる体質づくりを進める
- 当社が強みを持つ独自商品を絶えず開発・改良することで競争力を高め、シェアアップと収益拡大を図る。
- 作業員の多能工化を進め、受注に即した効率的な生産体制を構築するとともに、材料・構成の見直しを行い、原価低減を図る。
- 静岡・奈良両工場で取得したFSSC22000を武器に、大手包装材料メーカーからの委託加工の取り込みにも注力する。

第109期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（産業資材）

産業資材

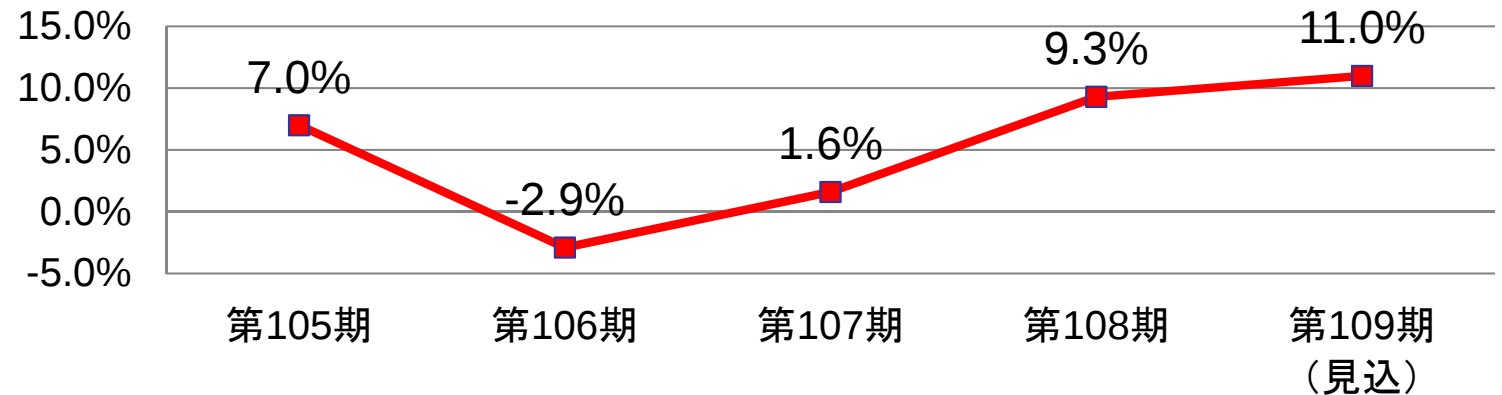


- 積極的な受注獲得と生産体制の再構築によって、早急に収支均衡を図る
- 掛川工場WESTを中核とする生産体制を確立し、品質・納期面で顧客の信頼を得て取引拡大を図るとともに、新規顧客の開拓に注力し、売上大幅増を目指す。
- 価格競争力のある新タイプの電材用工程紙の開発を加速し、この市場におけるシェア拡大を図る。
- 炭素繊維プリプレグ用工程紙の受注を拡大し、成長市場における足場を固め、収益構造の転換を図る。

第109期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（機能性材料）

機能性材料

営業利益率の推移



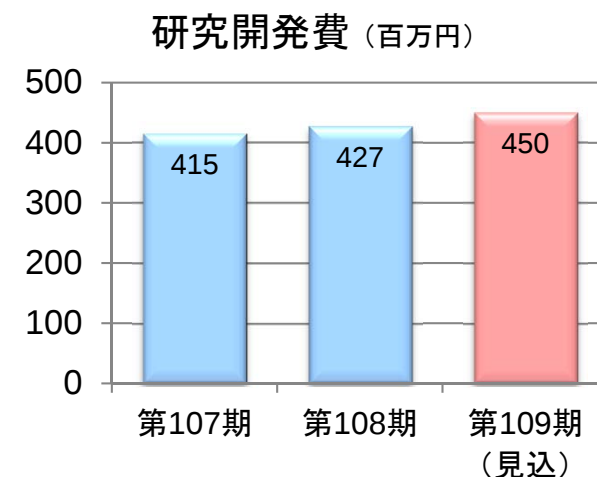
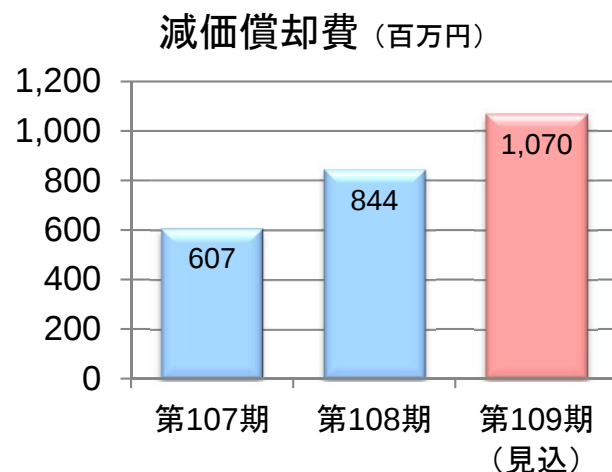
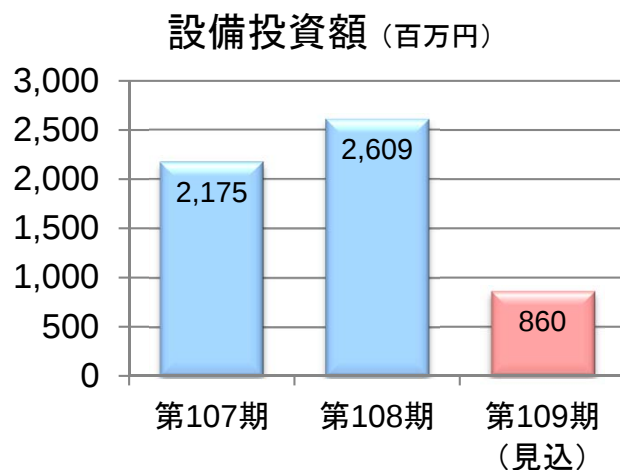
- 技術・品質・顧客対応の強化で高収益を維持し、グループ全体の業績を牽引する
- 長鼎電子材料の量産体制への移行と国内工場との連携強化によって、東アジアにおけるユーザー開拓を加速し、収益基盤を強化する。
- 顧客密着型の開発態勢をより強化して、光学用途のニッチな分野においても、新製品の開発段階から顧客との協業関係を構築し、将来の受注機会を確保する。
- 将来有望な有機ELに対する知見及び技術を得るために、有機ELの表面保護に関する開発テーマを顧客との間で数多く共有できるよう努める。

第109期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位: 百万円)

科 目	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期) (見込)	備 考
設備投資額	2,175	2,609	860	製袋機新設、テストラミネーター移設及び改造、フォークリフト更新他
減価償却費	607	844	1,070	掛川工場WEST・R&Dセンターの償却費増加
研究開発費	415	427	450	R&Dセンター関係の経費増加

設備投資額は無形固定資産を含む 百万円未満切捨て



目 次

4. 参考情報

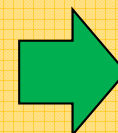
- 産業資材の商品展開
- 施設紹介
- 基本情報

参考情報：産業資材の商品展開

■ 掛川工場WESTの次なる取り組み

前期竣工した掛川工場WESTの特長を活かし、現在、開発・拡販を推進中の電材用工程紙や炭素繊維プリプレグ用工程紙以外に、新たな成長分野へ参入する

クリーンな環境を活かした製品づくり



メディカル分野への参入

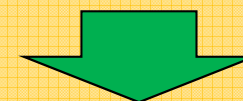
展開例

以下の医療用品向け剥離紙への展開を図る

- サージカルテープ
- 絆創膏
- 湿布薬
- 経皮吸収型製剤
- etc.



成長分野で付加価値の高い製品の開発・拡販を推進し、売上拡大を目指す



業績改善の流れを加速

参考情報: 施設紹介

■ R&Dセンター



所在地：静岡県掛川市満水1000番6号

R&Dセンターは、昨年10月、研究開発機能の強化・拡充を目的に、静岡市葵区より掛川工場WESTの3・4階へ移転し、“研究所”から現名称に改称いたしました。



床面積は旧研究所の約3倍(4,000㎡)。ゆとりあるスペースに試験機、測定器を更新したうえ、袋井・掛川両工場に近接しており、研究員が効率的に研究開発業務に取り組むことのできる環境を整えております。

参考情報: 基本情報

商 証 券 コー ド
設 表 立 者
代 業 者
事 業 所

株式会社 サンエー化研
4234 (JASDAQ スタンダード)

1942年9月 (昭和17年9月)

代表取締役社長 藤岡 宣隆

本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4

営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋、静岡

【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)

生 産 拠 点 : 静岡、袋井、掛川(2カ所)、奈良

野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)

【海外】中国蘇州 (持分法適用会社 長鼎電子材料)

研究開発拠点 : 掛川

21億76百万円

高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売

692名 (平成29年9月30日現在)

3月31日

資 本 金
事 業 内 容
連 結 従 業 員 数
決 算 期

業績予想は、本資料の発表日現在(12月7日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問合せ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719
E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp